

創エネ神戸 あわじ 竹チップ焚きボイラー見学 2021年11月11日

11月11日13時～13時45分、洲本市五色町都志の温浴施設「ウェルネスパーク五色ゆ～ゆ～ファイブ」の竹を燃やして給湯する「竹チップ焚きバイオマスボイラー」と「オフグリッドハウス おふさ茶屋」を見学しました。

洲本市 企画情報部 企画課 新エネ・域学連携担当係長 高橋 壱様より、ご説明いただきました。横山先生、北尾先生、創エネ神戸（伊賀、今橋、岡本、香川、近藤、富田、福田、水上、山田、渡邊）こうべ脱炭素社会づくり研究会（関根）、シルバーカレッジの現役生 合わせて18名が参加しました。

淡路島内では「放置竹林(竹やぶ)」が急速に広がっています。

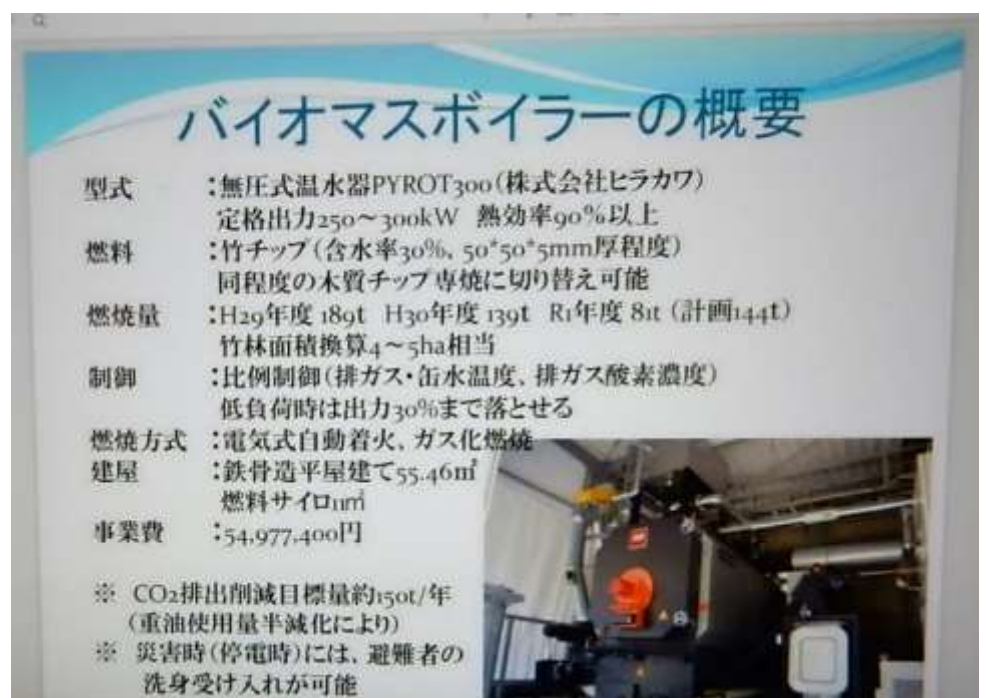
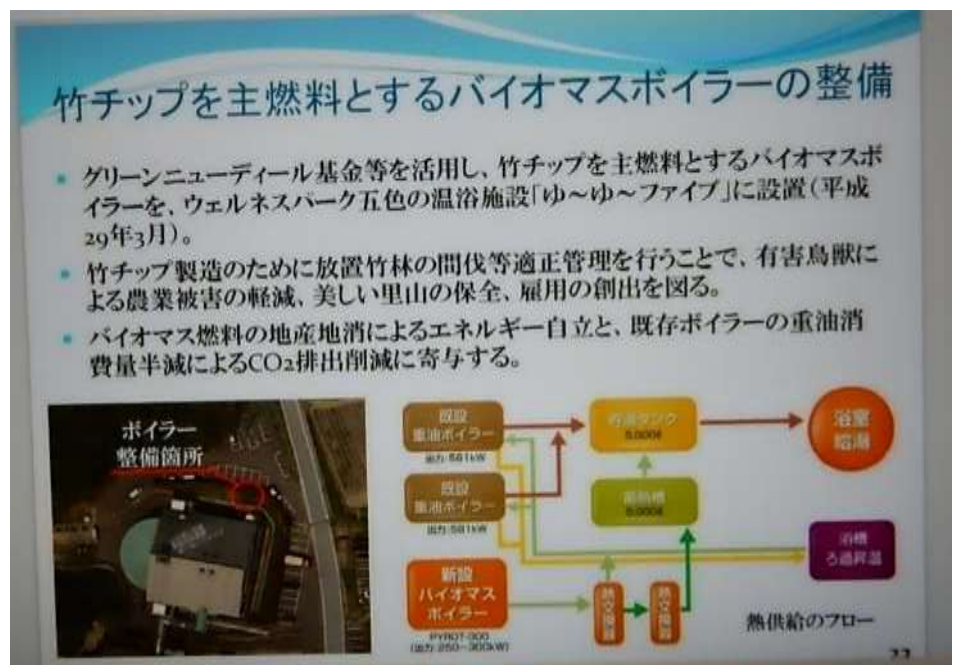
放置竹林は、土砂災害の危険性が高く、農作物を食い荒らすシカやイノシシ等の野生動物の棲家になるなど、大きな問題となっています。

そこで、兵庫県は「あわじ竹資源エネルギー化5か年計画」を策定し、伐採竹の有価取引や、竹チップ製造機設置の推進を行いました。

また洲本市は「バイオマス産業都市構想(竹資源の有効利用事業)」に基づき、竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーを温浴施設への熱供給のために設置しました。

これにより、竹チップを大量に製造・消費できる体制が整いましたので、放置竹林の適正管理を積極的に進めることとしています。

さらに、エネルギーの地産地消や、温浴施設での重油消費量半減化による二酸化炭素排出削減にも寄与します。





竹は燃えた後にガラス状の灰（クリンカー）が固着してかまを傷めやすく、竹を燃料とするボイラーは普及していない状況です。

ここのボイラーは、対策として 800℃で一時燃焼させる対策を採っており、5年間稼働しています。さらに、塩素やカリウムを除去するために、竹チップを水溶液で処理することも進めています。

近くにある「おふさ茶屋」です。



商用電源に頼らずクリーンな電力を自立できる、太陽光発電 4kW、小型風力発電、BDF（バイオディーゼル燃料）発電機、EV 蓄電池 12kWh、EV 普通充電設備を備えた「オフグリッドハウス」です。

（作成 岡本紘一）